青少年問題協議会条例

十九日の町議会できまる

10月19日の町議会で「甘楽町青少年問題協議会条例」がつくられ、10月20日から施行されました。

① この条例は、町内の青少年についての施策の連絡調整をはかつて、その効果を推進し青少年の健全な育成をはかるために、青少年問題協議会設置法に基づいてつくられたものです。

② 条例によつてつくられた協議会は、次の事務を行ないます。

イ、青少年の指導、育成、保護およびきよう正に関する総合的施策の樹立のための必要な事項を調査審議する

ロ、青少年の指導、育成、保護及びきよう正に関する総合的施策の適切な実施を期するために必要な関係行政機関相互の連絡調整をはかること。

③ 協議会は、町長を会長にして、委員五十人以内で組織することになつています。

この委員は次のものなかで町長が任命または委嘱することになつています。

町議会議員（社会委員）、町助役、町青少年関係部課の長、町教育委員、町教育長、所在の青少年関係行政機関の長（警察派出所、駐在）、社会福祉協議会長、児童委員代表、小・中学校長、保護司、学識経験者（婦人会長、PTA会長、青年団長）

消防自動車を購入

消防ポンプ自動車一台を購入しました。

町では、第一分団所属の消防ポンプ自動車が老朽化したため新しく、森田式ME型高圧二段バランス・タービンを装備したいすずTX六三一型（百四十馬力）消防ポンプ自動車を購入、同分団へ配車しました。

このポンプ自動車の価格は二百十二万円で、まだ県内に二、三台しかないという優秀車です

これからの火災シーズンに向つて、必ずや皆さまのお役に立つことと思います。

議員の選挙

甘楽町議会議員篠原良一氏の死去により、福島選挙区は定員の6分の1が欠けたため、次のとおり補欠選挙を行ないます。

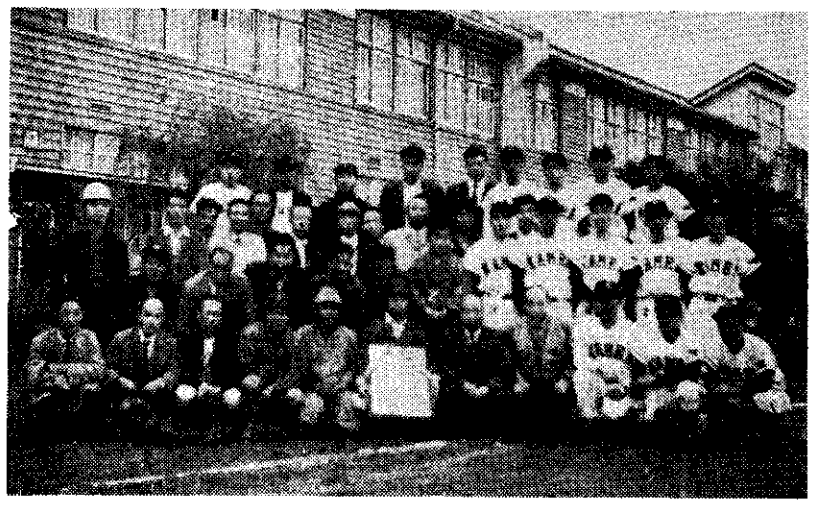
選挙期日	昭和36年12月3日
選挙区	福島選挙区
選挙する議員数	1人
選挙期日告示の日	昭和36年11月26日
投・開票所	福島出張所

甘楽町選挙管理委員会

追悼野球大会開く

故 篠原氏の写真の前で

甘楽町体育協会長篠原良一氏の死去を悲しむ追悼野球大会が10月21日午後、福島小学校校庭で行なわれました。



写真は、追悼野球大会終了後、故篠原先生の写真を中央にして、町長はじめ、体協関係者と役場野球部員。中央部二列めに篠原マサ夫人

これは、体協役員と役場職員野球部が、生前スポーツ好きな氏の霊に体協健在を報告し、永遠に安らかなれと、安置した氏の写真の前で、野球大会を開いたものです。

会場には、マサ夫人、町長をはじめ、多数の体協関係者も参加され、そのなかで、ゲームはなごやかに進められました。しかし、この日は、雪でも降りそうな空模様で、観覧者はもちろん、選手すらふるえるような寒さ。ついには、たき火をして観戦する始末でしたが、それがあたかも聖火燃ゆるがごとくに見え、追悼野球大会もいよいよ真にせまるふんい気がかもし出されたことは幸いでした。

試合は九対〇で役場チームが勝ちましたが、終了後大会参加者一同で「故篠原先生をしのぶ会」を開き、本年3月31日の町議会で録音した先生の最後の声を聞いてしばしはその死を嘆き悲しみ、一同はいまはなき先生の意志を継いで、体協の発展、ひいては甘楽町発展に努力することを、誓い合つたのでした。

一同は、昇天なされた先生がさぞかし喜んでくれたことを固く信じ、この会を閉じました。

体協会長に柴山氏

甘楽町体育協会では、十月二十六日夜役員会を開き、会長篠原良一氏の死去に伴なう後任会長の選任について、審議しました。この結果、副会長の柴山俊一氏（轟）の会長昇格が、全員賛成できまりました。

新しく会長になつた柴山氏は現在町議会の総務委員長、三十五才の最年少議員ながらよく町政を研究、その知性と正義感を遺憾なく発揮して、甘楽町発展のために活躍しています。

柴山会長談

篠原会長があまりに大人物すぎたので、私などが後任では心もとない。これも、篠原先生の遺言だといつて皆さんからせめられたので、やむなくお受けしたわけです。今後は、前会長の意志を継いで、力の及ぶ限りがんばりたい。

どうか、ご指導と、ご協力をお願いします。

……古代住居跡を発掘……

…その名を笹遺跡と命名…

十二月中に完成をめざして建築を急いでいます第一中学校の校庭から、弥生後期（千八百年前）から古墳時代後期（千二百年前）にかけての縦穴式住居跡が発見され、このうち七つが、県立博物館梅沢学芸員の指導のもとに、富高郷土部生徒及び明大、東大等の考古学研究生の応援で、発掘されました。

この住居跡は集団となつているほか、層をなしていて珍らしく、畑の地表から三十センチないし六十センチ前後下に埋れていました。大きさは、長径五メートルから八メートル、短径四メートルから七メートルあつて柱の穴が八つ、石で築いた炉、弥生式タル式土器のカメ、ツボタカツキ、石の飾り物、砥石などが多数出土しました。

いままでの調査によりますと東西三百メートル、南北二百メートルにわたつて部落をなしていると考えられ、古いものと新しいものが入りくんでいます。これは、この台地が非常に住みよかつたため、次から次へと住居が建てられたものと思われます。

写真は発掘された炉と土器

この遺跡によつて、甘楽郡地区にも古代住民が栄えたことがはじめてわかり、郡全体の上からも古代史研究の貴重な遺跡です。

この遺跡の名を近くに笹部落や、笹の森古墳がある関係上、「笹遺跡」と命名しました。

（教育委員会）

家屋の新・増・改築と滅失の届

昭和36年度中に家屋を建てたり、取りこわしをした人は、かならず役場へ申告して下さい。

申告用紙は、役場又は各出張所にあります。

（税務課）

砂防工事完成

富岡林業事務所では、昭和三十三年から小幡簡易水道水源の砂防工事を行なつていましたが十月に完工しました。工事費は約一千万円で、国と県が負担しています。

この完工によつて、水源の状況が良好になつたので、渇水についても利用者の期待にそえるものと思います。

（建設課）

雄川石の採取〝許可してない〟

問 甘楽町がほこる雄川石が自動車で堂々と持ち去られています。町当局は認可しているのでしようか。

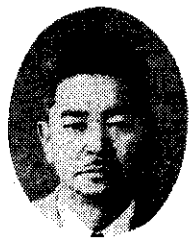
（一町民）

答 雄川石を愛するあなたに感謝します。河川石は、現在県知事の許可がなければ採取できません。しかし、雄川石採取は、砂レキの流出を防ぐ目的から、どなたにも許可してないようです悪質者には罰則がありますから、発見したら役場なり土木出張所へご連絡下さい

（建設課）

町議会議員（有功者）

篠原良一氏死去す



町議会議員篠原良一氏は、ことしの4月ごろ肝硬変症兼胆ノウガン等が発病、以来病院、自宅と交互に加療を続けていましたが、病状はますます悪化し、ついに、家族や関係者の再起の願いは神へとどかず、10月12日富岡厚生病院で昇天なされました。

氏は、昭和26年4月旧福島町議会議員に当選以来、正義感と豊富な見識を駆使し、町議会に重きをなしていました特に、合併によつて甘楽町をつくりあげるまでの氏の功績と、合併前後を通じてのスポーツをもつて町民の体位向上と、保健と、融和精神のかん養に資した積極的努力は比類なきもので、甘楽町の一体性確立に大きな貢献となりました。町ではこれを賞賛し、10月11日に氏を甘楽町の有功者に登録し、表彰しましたがこれが死出の「はなむけ」となろうとは、ああ、人生はなんと冷酷なものでありましようか。

※ 職歴　昭和26年4月30日から昭和36年10月死去されるまで町議会議員、この間昭和33年10月1日から国保運営協議会委員、また旧福島町当時に体育協会を設立自ら会長となり、続いて甘楽町体育協会長となる。

医師（五三才）